

骨の骨粗鬆症もその一つである。骨粗鬆症については活性型ビタミンD、カルシトニンなどの投与が一般的であり、かなりの効果もあることが報告されている。しかし、栄養障害は栄養摂取の改善がまず先決であると思われる。本実験では、食餌療法による単独治療法における歯槽骨の骨粗鬆状態の検索を行っているので報告する。

19. 再植後に形成された歯根様組織について

○久芳陽一，副島嘉男，本川 渉，吉田 穰（福歯大・小児歯）
谷口邦久（福歯大・口腔病理）

小児歯科臨床において、乳歯や幼若永久歯の外傷を主訴として来院する患者が少ない。従って乳歯あるいは幼若永久歯の陥入あるいは脱落例も多い。このうち、幼若永久歯が完全に脱落した場合には再植術が試みられている。しかし、その予後についてはまだ判然としない点が多い。今回、我々は再植後に歯根様組織の形成された症例に遭遇し、観察する機会を得たのでこれについて報告する。

20. 小児の唾石症 4 例について

○小笠原 靖，中原 世津子，副島嘉男，山田清夫，
吉田 穰（福歯大・小児歯）
谷口邦久（福歯大・口腔病理）

唾石症に関する報告は数多くみられるが、小児の唾石症に関しては比較的報告が少ないようだ。今回、我々は最近経験した小児の唾石症 4 例について、摘出唾石をSEMにより観察したのでその概要を報告する。